

活気のある世界の若者が羽ばたくWNU夏季研修

メンター 齊藤健彦 (UAE連邦政府原子力規制局)



1. 今年もオックスフォードで開催

8年目となる世界原子力大学(World Nuclear University, WNU) 夏季研修が7月7日より8月18日の6週間、英国オックスフォード大学で開催されました。この夏季研修にメンターとして参加する機会を得、その様子と印象を報告します。

2. 多くの原子力関係者が参加

受講者はフェローと呼ばれ、世界29ヶ国から、元気の良い若者が参加(表1、合計79名、平均年齢32歳)。フェローは原子力発電国の原子力産業界の若手と、これから原子力発電を考えている国の政府関係者に大きく分けられますが、彼等の職種、専門は多様です。

日本からのフェローは、原子力産業協会支援の5名と、JNESから2名の合計7名で過去最大。講義が英語で進むこともあって、当初は英語圏フェローが質疑やグループ討議で主導権をとっていましたが、中盤からは日本人フェローも積極的に討議に参加し、国際経験を積んでいました。今後も原子力は国際化せざるを得ず、日本の若手がこのような国際研修会に参加し、力をつけていくことに期待します。

フェローの助言指導にあたるメンターとして世界から合計10名が参加(英国4名、米国3名、フランス、ロシア、日本(筆者)各1名)。筆者は他のメンターや世界の講師(合計64名)から多くを学ぶとともに、世界の活発な若手フェローから多くを学び、大変有意義で楽しい毎日を過ごしました。

3. 世界の専門家による広範囲な分野の最新講義

講義は原子力の広範囲な分野にわたり世界の専門家とリーダーが最新の知見をベースに実施。テーマは例年通り大きく5つのテーマに分けられています(表2)。さらに、若手原子力リーダーを育てる目的でリーダーシップに関するテーマが入っています。講師のほとんどは欧米人で、これにヨルダンやナイジェリアといった新規原子力導入検討国のリーダーが講演。また韓国人講師が、韓国での原子力スタートから現在までの開発努力を講演しました。

日本人講師も今年は3名と増え、筆者は福島事故の原因と、事故後のIAEAとUAEの安全強化活動を中心に世界の動きと教訓を紹介。下村氏(JNES)が日本の国会・政府事故調報告書の内容を中心に紹介、花光さん(IAEA原子力エネルギー局)が、IAEAの原子力知識管理活動につき講義されました。

4. 活気のある小グループでの討議

本研修期間、基本的に午前中は講堂で講義、午後は10名弱の小グループ別に、講義内容の復修と議論をし、講師への質問を集約。メンターはここで助言。その後講堂に移って、全体会で講師との質疑を通して理解を深めます。

第3週の施設訪問(今年はスウェーデン)の後、第5週後半からは、講義と共に現在原子力の問題となっている課題(表3)をグループに分かれて検討。最終の第6週に、各グループ検討結果をまとめ、講堂で全員を前に発表コンペ。

講義を聴いて、その後質問をする程度の研修やワークショップが通常多いが、本夏季研修では小グループでメンターを含めたグループ討議を実施。これにより、同僚フェローからも学び理解を深めると共に、グループ議論のやり方も英語で実習。

5. 楽しい課外活動と人脈

一日の研修後、学生会館での懇親パーティ、オックスフォードの街でメンターを含めたWorking Group会食、親善スポーツ会、オックスフォード近傍の観光名所の週末バス旅行等で、世界のフェローやメンターと個人的に交流でき、今後の仕事に役立つ人脈を得られることもWNU夏季研修のメリットの一つ。

6. おわりに

最後に今回のWNU夏季研修に参加し特に感じた点を記して報告にします。

- (1) 原子力の広い分野の世界的専門家と活気あふれる若者との交流は、フェローにもメンターにも大変有意義。
- (2) 従来の日本のトレーニングに少なかった参加型議論の実践は非常に有効。
- (3) 今後も日本人若手が、世界的見識と国際感覚を身につけ、国内外で活躍することを期待。

表1 参加フェロー数

米国(12)	カナダ(10)	英国(10)
スウェーデン(4)	フランス(3)	ベルギー(2)
フィンランド(1)	スペイン(1)	ロシア(1)
ウクライナ(1)	韓国(7)	日本(7)
中国(2)	インドネシア(1)	インド(1)
マレーシア(1)	バングラデシュ(1)	シンガポール(1)
フィリピン(1)	アルゼンチン(1)	ブラジル(2)
ヨルダン(2)	オーストラリア(1)	UAE(1)
イスラエル(2)	ナイジェリア(1)	エジプト(2)
ジンバブエ(1)	南ア(1)	

表2 講義のテーマ(週単位で示す)

(1) 原子力を取り巻く背景(エネルギー需要と供給、地球温暖化、発電以外の原子力技術利用、原子力政策等)
(2) 原子力産業(ウラン採鉱、濃縮、燃料、第3世代・第4世代原子炉、燃料サイクル、核廃棄物、デコミ、核物質輸送)
(3) 原子力安全、放射線防護、核不拡散・保障措置
(4) 広報、経済性、条約・法令
(5) 原子力発電の新規導入、原子力知識管理

表3 小グループでの検討課題(Forum Issue)

(1) 低レベル放射線の健康に与える影響
(2) 放射性廃棄物貯蔵のオプション
(3) 使用済み燃料再処理の利点と問題点
(4) 原子力技術に対する一般人の恐れ緩和策
(5) 新原子力プラント建設資金調達
(6) 原子力プラント設計認定の国際機関の必要性
(7) 原子力安全、安全文化、総合性能の管理
(8) リーダーシップと強力な集団の開発